

なんじゃもんじゃ

Vol. 35

Municipal Ena Hospital Public Relations Magazine

恵那病院ホームページはこちら
<http://www.enahp.enat.jp/>



INDEX

『喫煙と健康被害』報告書発表50周年…1	
栄養管理委員会…2	
助産師相談室“ひとねる”について…3	
訪問看護ステーション開設のお知らせ…3	
外来担当表…4	
クイズ…4	
編集後記…4	



当院は平成22年より(財)日本医療機能評価機構の認定を受けております。

『喫煙と健康障害』報告書発表50周年

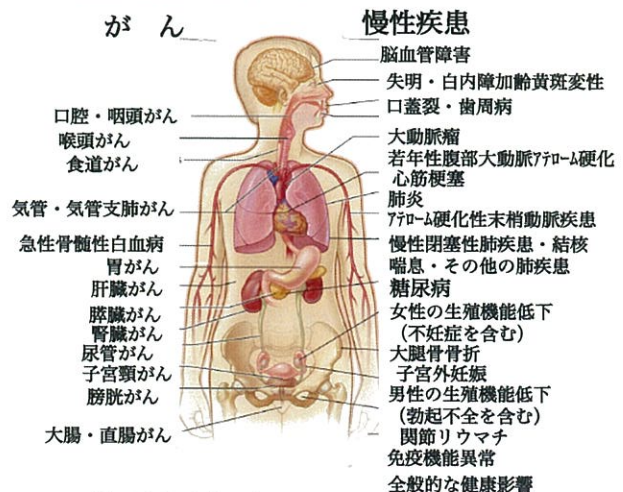
今から50年前の1964年米国連邦政府公衆衛生局長官は、大統領ジョン・F・ケネディーの要請により「喫煙と肺がんおよび心疾患に関するレポート」を報告しました。その内容は1. 喫煙は男子の年齢別死亡率を増加させる。2. 喫煙は肺がんおよび喉頭がんの原因である。3. 喫煙は女子の肺がんの原因の疑いがある。4. 喫煙は慢性気管支炎の最も重要な原因である。この報告は米国のみならず、全世界に、衝撃を与え、禁煙対策が開始されました。その後、レポートは継続的に発表され、1970年代に入り、受動喫煙による非喫煙者への健康影響も明らかにされ、1988年には、ニコチン依存こそが喫煙習慣の開始と、禁煙の困難性をもたらすという重要な要因が明らかにされました。さらに、ニコチンは、胎児期の発達障害・脳障害、免疫異常、心血管系異常、中枢神経系異常、発がん性などの幅広い健康障害の原因になることも明らかにされました。

今年1月喫煙と健康のレポート発表50周年を記念して、現在までに蓄積された喫煙と健康に関する研究の集大成が報告されました。この報告にある喫煙と因果関係がある病気の一覧を図で示しました。この図を見ますと、改めてたばこが健康をむしばんでいることがわかります。日本でも1964年の米国の報告後、禁煙と健康に対する対策が実施され、2004年には「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」を受諾しており、世界の国々と協調して、たばこ対策を実施しています。その主な内容は1. 職場・公共の場での禁煙。2. たばこの包装の規制および健康警告の表示の義務化。3. たばこ広告の規制。4. 未成年者に対するたばこ販売禁止の効果的な措置の実施。現在病院・学校・役所などが禁煙になっているのは、この条約に従っているからです。

現在たばこを吸っている人は、今からでも遅くありません。禁煙しましょう。また、家族の方でたばこを吸っている人がいましたら、禁煙を勧めましょう。恵那病院では、禁煙を希望する人を、援助するために、禁煙外来を開設しています。長年喫煙していた人が、禁煙することは、なかなかできません。禁煙外来は、禁煙を希望する人の相談にのり、薬を利用し、苦痛なく禁煙ができる治療方法です。たばこを止めたいと思っても、禁煙できない方は、禁煙外来を受診して、たばこを止め、健康な体に回復しましょう。

禁煙外来の診察日は毎月第1・3金曜日 午後2時から（事前予約制）です。受診を希望される人は、電話で申し込みしてください。
 (電話番号0573-26-2121)

喫煙と因果関係のある病気



米国連邦政府公衆衛生局
 喫煙と健康レポート2014 より

(副病院長 近藤芳正)

栄養管理委員会



今回は、栄養管理委員会についてご紹介します。

栄養管理委員会は、栄養室で提供している食事が患者さんの症状や嗜好・希望などに添っているかを**多職種(医師・管理栄養士・看護師・事務・調理師)**で検討しています。

年に2回、**嗜好調査**を実施し、その結果から患者さんのご意見・ご要望に耳を傾け、献立に反映させられるよう努力しています。

活動内容は、嗜好調査が主です。嗜好調査には、実際に調理を行っている調理師が患者さんのもとへ出向き、これからの調理に生かすために生の声を聞いています。その他、食事内容の検討(**試食会**)・各部署との連携・業務内容の検討(**食器変更**)など行っております。

嗜好調査の項目として、分量や味付け・ご飯の炊き方・温度・食器・リクエスト料理・間食・病院食の満足度があります。

例えば**分量**に関しては、入院時に一人一人患者さんのもとへ管理栄養士が伺い、食欲などお聞きし調整しているため「多い」「丁度良い」「少ない」の選択肢の中でも「丁度良い」を多く選んでいただけています。味付けについては、毎食管理栄養士が味見を行い、安定した味を提供できるよう日々努力しています。

当院には、**お米**を作られている患者さんも多く、お米についての意見が数多く出ていました。そのためお米には、自信をもって提供できるよう岐阜県産のこしひかりに変えるなどしてきました。食器は、家庭での食事に近い状態で食べていただけるよう、暖かみがあり、触り心地が良い陶器を使用しています。嗜好調査を参考に、よりよい食事提供に繋がるようこれからも取り組んでいきます。

食事内容の検討については、**牛乳**のサンプルを他社から取り、現在のものと飲み比べをして、より美味しいものへ変更しています。また業務内容の検討に関しては、業務用の機械では**肉や魚に焼き目**がつきにくいため、ガスバーナーを使用し、見た目良く食べていただく工夫をしています。また、お子さんの入院もあるため保護者の方の付き添い食(希望のある方)を検討し、実施しています。

新病院に向け**管理栄養士3人体制**となり、もっと患者さんと触れ合う機会を設けたいと思っています。その1つが嗜好調査だと思いますので、今後も患者さん一人一人の身体状況を考え、それぞれのケースに合った適切な食事による病状の回復促進とQOL(生活の質)の向上を目指していきます。



(栄養室 富田由乃)

助産師相談室“ひとねる”について



市立恵那病院では、昨年7月より妊産婦の皆さまの育児支援などのため、**母乳育児相談室えなマンマ“ひとねる”**を立ち上げ、1年が経ち、**助産師相談室“ひとねる”**と名称変更し、電話相談も始めました。

開設当初は、8人/月ほどの利用数でしたが、今年になって30人/月近くまで増えました。主な相談内容は、乳房トラブルや母乳不足感、母乳の飲ませ方やミルクの足し方などです。最近では、お乳をやめるためにはどうしたらよいか？などの断乳・卒乳の相談も増えています。その内容により、電話や来院対応で、乳房マッサージ・お乳の飲ませ方や赤ちゃんの抱き方、搾乳方法などの対応をしています。相談者の状況に合わせてお話をするので、必要時間は区々マチマチになります。相談回数も1回～数回継続して利用する場合や、いったん中止し、再度利用下する方もあります。最初は慣れなかった子育ても、しばらくすると表情が明るくなり、自信を持って過ごされる姿を目にすることもでき、とてもうれしく感じます。

また、婦人科外来において、毎月1回、土曜日午後（現在は不定期）周産期医療センターの川鱈市郎先生に来院頂き、妊娠20週から30週の方の**胎児スクリーニング**を実施しています。胎児スクリーニングとは、胎児の発育状態を細かく超音波診断装置（エコー）にて検査するものです。検査を受けられた方々からは、“しっかり見て頂けて良かった”、“安心した”などの声を頂き

ます。是非、一度検査を受けてみませんか？（要予約）

徐々に助産師仲間も増え、現在5名が外来や病棟業務をしながら対応しています。今後さらに産前・産後のお母さんと赤ちゃんの健康を考えた保健指導も充実させたいと思っています。助産師が、皆様の相談窓口として丁寧に対応します。是非、声をかけてください。

（外来助産師 森 志穂）

助産師
電話相談

妊娠中・出産前後・育児中のお悩みや不安について、
電話で助産師に相談してみませんか？

☎0573-26-2220〔直通〕（平日 9:00～16:00）
市立恵那病院 助産師相談室「ひとねる」

8/9・10の2日間 市立恵那病院においてALSO-Japan プロバイダーコースが開催されました。

全国から25名の医師等が受験され、当院から2名の医師が合格しました。

※ALSOとは：周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を身につけるための研修です。

訪問看護ステーション開設のお知らせ



市立恵那病院では、10月より訪問看護ステーションを開設しました。在宅療養を安心して送っていただけるよう、看護師がご自宅へ出向きお手伝いをさせていただきます。退院後の療養など心配な事がありましたら、下記までご連絡下さい。

市立恵那病院（担当 遠山 近藤） ☎ 0573-26-2223